

第 16 回 小豆島町総合教育会議

【日時・場所】

- 開催日時 平成 29 年 1 月 27 日（金） 午後 3 時 30 分～午後 4 時 45 分
- 開催場所 内海庁舎 2 階 研修室
- 出席者 塩田町長、後藤教育長、熊坂委員、岡田委員、黒木委員、中川委員
森口小豆島町議会議長、大川小豆島町議会副議長、
安井教育民生常任委員会委員長、中松教育民生常任委員会副委員長
谷総務建設常任委員会委員長
木村小豆島高等学校教頭、小玉小豆島中学校校長、出水池田小学校校長
羽座星城小学校校長、石田安田小学校校長、川井苗羽小学校校長
慈氏草壁保育園園長
- 同席者 【町職員】
松本副町長、松尾副町長、坂東教育部長、空林総務部長、大江企画振興部長、
濱田健康福祉部長、城政策統括監、松田社会教育課長、後藤子育て共育課長、
川宿田企画財政課長補佐、高橋教育指導室長、片山教育指導室長補佐
【教育関係者】
安藤園長(星城・安田・苗羽幼稚園)
川口園長(旭・福田幼稚園、内海保育所橘・福田分園)
岡田池田幼稚園園長
大岡内海保育所所長

- 傍聴者 8 名
- 事務局 3 名

【内 容】

[塩田町長]

全員揃ったので、16 回目の小豆島町総合教育会議を始める。今日も小豆島町教育大綱案について審議していただく。前回素案をお見せし、ご意見いただいたものを織り込みかつ文章化した案が手元にあると思う。後程、事務局から説明をさせる。今日も意見をうかがい、その後町民の皆様からのパブリックコメントを 1 ヶ月程募集し、年度末には教育大綱としてまとめたい。では、事務局から説明を。

[坂東教育部長]

私から、教育大綱案について説明する。配布資料の横型のものは、前回の会議で示したものの修正版である。前回の会議以降、7 名の方から事前にご指摘・ご提言いただいた件について一部修正をしている。文言の修正等については省略するが、一番大きなところが 1 ページ目の下半分の重点課題の取組Ⅳ幼・保、小、中、高の一貫教育の推進である。こ

ここに、6番として家庭・地域の教育力向上の取組という項目を追加した。この資料について大きく変わったところは、以上である。そして、先日事前配布した縦長の文章での教育大綱案本編であるが、前回の教育大綱案の概要版を文章化したものになる。少し具体的に説明するが、2ページの幼・保、小、中、高の一貫教育の推進の2番の同じく、幼・保、小、中、高の一貫教育の推進の部分で(1)として幼・保、小、中、高の連携強化があるが、(2)に実際に取り組む一貫教育の内容の事例をあげている。コミュニケーション教育等の推進ということで、①演劇等を活用したコミュニケーション教育の推進、②英語教育の推進、③ふるさと教育の推進と記載している。3ページ以降、教育環境の取組、学校教育の取組とあるが、これについては事前配布しているので、内容の説明は省略する。15ページに、前回にはなかった6家庭・地域の教育力向上の取組として詳細を記載している。内容については(1)学校・家庭・地域の連携強化、(2)家庭及び地域の教育力向上の推進という項目になっている。内容については再掲の部分が多く、学校教育の中にも家庭・地域の連携という部分があるので、その部分から抜き出して再掲として家庭・地域の教育力向上の取組という項目を作っている。以下、内容については、事前に配布しているので説明は省略する。以上。

[塩田町長]

パブリックコメントについても説明を。

[坂東教育部長]

引き続き、配布している小豆島町教育大綱案に対する意見募集についての資料で、パブリックコメントの募集についての文書である。2枚目が、意見募集の様式であり、これについては、一般的な様式を用いている。そして、教育大綱案に係るパブリックコメントについての資料であるが、ご存じだとは思いますが、左上にパブリックコメント制度についての概要を記載している。国の行政機関は、政策を実施していくうえで、さまざまな政令や省令などを定める。これら命令等を決めようとする際に、あらかじめその案を公表し、広く国民の皆様から意見、情報を募集する手続がパブリックコメント制度である。この制度については、国の制度で地方公共団体、県や市町等は行政手続法第3条第3項の規定により、適用されないが、同法第46条の努力規定により、市町村においては任意で実施することになる。右側が、国の意見公募手続の流れになる。左から、まず案の作成、その案の公示・意見募集になる。この案や資料を、インターネットを通じて公示し、期間については30日以上意見を募集することになっている。この意見募集の結果を考慮しながら最終的に政令などの策定、その後結果の公示の流れになる。今回のパブリックコメントについても、この国の意見公募の流れに準じて実施していく。資料下部がスケジュールの案になる。まず、一番上、総合教育会議本日第16回、1月27日開催ということで、この場で皆様から意見をお聞きし、その意見を受けて教育大綱へ意見を考慮し、最終的に公表を行う教育大綱を目安として2月10日頃までに作成したい。この案が策定したら、パブリックコメントとして、2月10日ごろから30日間取りたいと思っている。これについては、町のホームページ、公民館等で周知したい。総合教育会議に参加いただいている皆様においても、このパブリックコメントと合わせて意見・ご提言をお聞きしたい。次に3月10日頃になると思うが、期間の30日が経過した後、それらを考慮した教育大綱を策定したい。これについては、3月下旬に第17回総合教育会議を開催し、ここで教育大綱の策定を考えている。その後、この教育大綱の策定を受け、4月に入り教育大綱の公開、意見結果の公表

と考えている。

[塩田町長]

事務局からの説明について、意見、質問があればお願いしたい。

私から質問をしたい。この総合教育会議でもう一度意見を交換させていただくが、教育大綱が出来上がった後、いろいろな取組をしなければならない。その中でも、小豆島中央高校の開校が近づいているが、どんな準備状況なのか紹介してほしい。

[木村小豆島高等学校教頭]

現在の小豆島中央高校の準備状況であるが、施設はほぼ出来ており、体育館や校舎等は12月末に引渡しを受けている。ただ、中身やグラウンドについては遅れているというか、間に合うのかという状況はある。今現在、事務部長と土庄の事務部長、本校の事務部長とで協議して、入れていくものを予算の範囲内で優先順位を決めながら購入を考えている。足りないものは、次年度にまわす等たちまちの教育活動に支障がない形で進めているが、思うようには進んでいない。しかし、平成29年4月がスタートなので、スタートしてからさらにいろいろなものを積み上げながら、進めていかなければならない状況である。いろいろ夢を語っていたが、現実難しいところもある。

[塩田町長]

木村教頭にも分からないことがたくさんあるが、今の説明は主としてハード部分の準備状況の話であった。小豆島町で言うと、アクセス道路の安全対策等について県事務所に行き協議をしているところですが、なかなか間に合わないという大きな課題を抱えている。この総合教育会議の教育大綱を読んでいただければわかるように、幼・保から高等学校まで一貫教育することを全面に出しており、かつ内容として事務局から説明があったように、コミュニケーション教育、英語教育の推進を掲げている。このソフト面である一貫教育をしようと思えば、高等学校の校長先生以下、県教委と両町の教育委員会、両町総合教育会議、両町民の皆さんとの意思疎通等、今までとは全く違った対応が求められる。もし、それをしなければ、何のために新しい高校を作り、教育大綱の中で一貫教育をうたうのか問われるところである。これは、いつ頃からどういう風に取り込まれるか。

[木村小豆島高等学校教頭]

今現在、この大綱の前の段階でも、小、中、高が連携して、高校としては小豆島中学校と十分な行き来をしながら、状況を聞きながら先生方とやっているが、こういった大綱ができることによってさらに進めていかなければならないことは当然であると思う。小、中の積み上げが必ず高校に影響してくる、そこをしっかりとすれば高校もさらに伸びることができる。連携に関しては今まで以上に密にしなければ、うまく進まないと思う。具体的にどのような対応をしていくのか、ということについてはまだ伝えることができないが。

[塩田町長]

陸上競技と野球が昨年、今年と非常に良い成績をあげているが、民間の人の自主的な取組や先生方の努力でこの両部については、事実上一貫教育が実現しており高校生の成績に表れている。一貫教育をどのようにしていくかは、非常に重要な問題である。小豆島町教育委員会は今後どのようにして、これを実現しようとしているのか。

[後藤教育長]

木村教頭より話があった様に、一貫教育の大切さ、特に密に連携していかなければならない。実際に教育内容を、土庄町、小豆島町両町と、新しくできる高校とで十分話し合っ

て積み上げていかなければならない。それをどういう風に積み上げていくか、話し合いの場を持たなければならぬと思う。それに合わせ、教育内容に対しての予算をどうするかそのあたりについても、組織をどう考えていくのかという組織づくりも考えていかなければならないと思う。そして、ある程度の道筋ができた場合、それに則って進めていかなければならないが、その際の評価等を総合教育会議でお知らせしていくことになると思う。具体的に話せばいいのだが、いまのところ考えているのは以上である。また、小豆島町には学校教育研究会というものがあり、土庄町には土庄町教育推進研究会というものがある。このあたりがひとつになり、小豆島中央高校を頂点として組織を改編していくのが一番いいのかと思う。

[塩田町長]

学校教育研究会というのは、小豆島町の小学校と中学校の校長先生の会なのか。

[後藤教育長]

小、中、高全部である。

[塩田町長]

では、小、中、高のどのような先生が入り、どのような議論がされ、その結果はどう行政に反映されるのか。

[石田安田小学校校長]

小豆島町学校教育研究会というのは、幼・保、小、中の管理職、担当の職員等ほぼ全職員が来て研究会を行っている。2年に1度小学校、中学校で研究会というものを開き、それとは別に8部会がある。学力向上、人権同和、体力づくり、外国語、生徒指導、特別支援、メディア、健康づくり、この8部会に分かれて情報交換をしたり、研修を受けたりしている。まずは、幼・保、小、中、高の共通理解を図ること、子供たちの実態をもとにどう対応しどう解決していくかという会である。そこで話し合われたことが、町長まであがることはないが、子供の方に返していくという研究会である。

[塩田町長]

土庄町の会も同じようなものか。

[石田安田小学校校長]

土庄町の場合は部会に分かれてはいない。学年で分かれるようである。また、組織が小豆島町と土庄町とでは少し違う。

[塩田町長]

そうすると単純に土庄町と小豆島町の研究会をひとつにするということは難しそうだ。

[石田安田小学校校長]

ただ課題については、土庄町も小豆島町もほぼ同じであると思う。

[塩田町長]

今度新しい高校ができて、小、中、高一貫で、島を挙げて取り組むことを問題提起しているが、それに応えるためには、新しいスキームがいるのではないか。

[石田安田小学校校長]

小豆島町の教育研究会と同じような組織を土庄でも作ってもらい、同一部で研究していけば、幼・保、小、中、高、両町でいけるかと思う。

[塩田町長]

その新しいスキームは、いつ頃誰が提案して動き出せばこの教育大綱で目指している高

等学校から幼・保までの一貫した教育が動き出すのか。

[石田安田小学校校長]

それに合わせてであれば、もう時間がないと思う。来年度早急にかかっていたら。

[塩田町長]

それは誰がアクションを起こすのか。

[石田安田小学校校長]

まず、それぞれの研究会の長が話を進め、教育委員会に話をあげて。

[塩田町長]

それを待っていたら、時間がない。

[谷総務建設常任委員会委員長]

石田校長が言っていたように8部会等合わせることに時間がないのであれば、町長、教育長なり、上から話を持っていけば間に合うのではないかと。先生方が話を持っていくのがいいのだろうが。

[塩田町長]

それは難しいと思う。

[谷総務建設常任委員会委員長]

そもそもどういったかたちで、研究会が作られたのか。

[後藤教育長]

先に土庄町に教育推進委員会があって、土庄町から小豆島町に変わってきた先生が、小豆島町にそういったものが何もないということで作ったのが学校教育研究会の始まりだと聞いている。

また、話を聞いているが新しい高校の先生方の気持ちのひとつにしていくということも、ひとつの大きな課題である。小豆島町、土庄町の先生方も目標をひとつにしてやっていくことを固めていかなければならないと思う。

[塩田町長]

教育の専門の先生方を中心として、一貫教育や教育の内容をどう進めていくかという大きな問題があるのと同時に、小豆島町、土庄町、その企業が新しい高校をどうバックアップしていくか。後援会の態勢が問題である。今は、小豆島高校なら小豆島町、土庄高校なら土庄町の人たちが応援しており、個性豊かにやっている。新しい小豆島中央高校は小豆島全体で応援しなければならない、今までに経験していないスキームである。例えば、緞帳ひとつ作るにしても県教委からは一円も出ない。クラブ活動を強化し特別な先生をよぶことも県教委からは一円もでない。英語教育で、県が決めているレベルの高いものを目指そうとすると、その講師を呼ぶことも県教委からは一円も出ないと思う。そういういろいろなバックアップは両町の人たちがしなければならない。町長が行政の側がどうバックアップしていくかを本来ならば、来年度の予算に盛り込まないといけないが、内容が決まっていないので盛り込めない。今、別枠で後援会の態勢をどうするか相談しているが、まだ立ち上がっていない。もう2ヵ月しかないのに準備がまだまだである。この総合教育会議がどのような役割を果たすか、教育委員会がどのような役割を果たすかがとても大事になってくると思う。

この教育大綱は、法律上町長が作るものになっているが、これが作られた後、教育委員会はどのような作業をするのか。

[後藤教育長]

教育委員会としては、教育大綱をもとにして教育委員会としての具体的な取り組みを各幼・保、小、中、高に示していくようになると思う。5カ年の計画で、これを1年後、2年後とステップアップし、到達目標をもっていきたい。そして、各幼・保、小、中が一緒になって前へ進んでいけるような計画を作っていきたいと考えている。

[中松教育民生常任委員会副委員長]

パブリックコメントについてですが、これは具体的にどういった場で町民に知らせるのか。

[坂東教育部長]

国はインターネットであり、そういったシステムがある。本町に関しては町のホームページ、公民館に意見募集についての文書と大綱案の資料を置くかたちを考えている。場合によっては資料が多いので、例えば保護者の方にはホームページ等でパブリックコメントを募集しているといったお知らせをしようと考えている。

[中松教育民生常任委員会副委員長]

非常に町民にとって大きなことであると思うので、できるだけこういったことがあるということをすみずみまでわかるような方法をとってもらいたい。全体内容でなくても、その一端がわかるような方法をとってもらえればありがたい。

[塩田町長]

今の中松議員の提案にもっと具体的に答えてほしい。この分厚い資料を公民館に置かれてもわからない。

[坂東部長]

公民館にも置くが、基本的にホームページに掲載する。保護者についても、先程申し上げたように、資料自体を配布するのは難しいと思うので、ホームページ等で確認いただきご意見していただくかたちになると思う。あと、全町的にお知らせするとしたら、朝の町内放送等でお知らせをする。実際の資料等に関してはインターネットでご覧いただくか、池田であれば総務課、内海であれば教育委員会に来ていただくという方法になると思う。

[後藤教育長]

学校の先生方にお聞きしたい。保護者の方にご意見いただくときにこの文書を配りお願いするということは可能か。幼・保の先生方も同じように、保護者の方に広く知っていただきたい。

[慈氏草壁保育園園長]

保護者への周知ということであれば、一斉連絡網を持っていると思うので、そこでこういうふうアクセスすれば教育大綱に対するパブリックコメントすることができることをお知らせすることは可能であると思うが。

[塩田町長]

旧内海、旧池田地区で3回ほど説明会を開いたりできないのか。集まるか集まらないかは町民の方次第であるが。

[大川小豆島町議会副議長]

インターネットというが、町内で見える人が何人いるか。毎日インターネットを開く人がどれだけいるか。それであれば、極端な話、町広報に入れ教育大綱案やパブリックコメントを募集することを周知するべきである。前回の町政懇談会のこともあるが町民は集まら

ない。無理がある。それであれば、広報にチラシ一枚でもいいからこれについて入れるべき。

[坂東教育部長]

チラシについては、次号に入れるようにする。

[後藤教育長]

先程、慈氏さんからメールという方法があると教えていただいたが、中学校ではこの資料を全部配って読んでもらおうとすると、どんな反応になるだろうか。

[小玉小豆島中学校校長]

本校にもメールシステムはあるので、こういったものがあるというお知らせは出来ると思う。ただ、これだけの分厚い資料を配ってもどれだけの保護者がこれを読んで内容を理解できるかは非常に疑問に感じる。PTA 運営委員会等、何らかの機会において、できればA4一枚くらいでエッセンス的なものを、29年度から5カ年でこういったものを進めていきますよという概要的なものがあれば、配布しても目を通してくれるかと思う。

[塩田町長]

この教育大綱は実は、小豆島の未来についてとても大事なメッセージが織り込まれているので、教育に携わっている方がたくさん集まる機会はないだろうか。ポイントは教育だけでなく、いろいろなことを踏み込んで書いている。従来教育委員会がしていた仕事を全然違う角度で書いている。今までの教育委員会だけではなかなか問題解決ができないので、行政のトップである町長が全体を見た教育大綱を作るということがこの会の趣旨である。ちゃんと説明する場を設けることが必要であると思う。

[後藤教育長]

先程いっていた、PTAの運営委員会等それぞれ今からあると思うが、そこにこちらから伺ってお願いをすることは可能か。

[小玉小豆島中学校校長]

例えばPTA総会とか。4月に入るが。

[谷総務建設常任委員会委員長]

3月に全校委員会があるのでは。

[小玉小豆島中学校校長]

そういった会はある。

[塩田町長]

3月までにできれば顔を出すし、4月以降も。というのは、新しい高校の校長先生が決まり、それから夏までの期間がとても大事な時期である。島民の皆様の反応はスタートダッシュである夏までの期間であるし、とても大事である。文書よりも、書いてあることを実行することが一番大事であるので、むしろ4月以降でも構わない。文書は後で変えることもできる。パブリックコメントの趣旨とは変わってきてしまうが、そういうことである。

[後藤教育長]

PTA総会で少しの時間をいただくということでもいいか。計画に盛り込んで欲しい。他に意見があれば。

[谷総務建設常任委員会委員長]

この会もすでに16回であるが、時間帯のせい最低でもPTAの会長、役員が来れない。なので、こういった会があつてこういったものが出来上がったことを、先生方が伝えれば

いいのかもしれないが、18回以降にしても保護者が来られる時間帯に開くといいと思うが。

[後藤教育長]

是非18回以降、前向きにいきたいと思う。

[塩田町長]

小、中、高の統合やいろんなプロジェクトが動くのもこれからの話なので、真剣に取り組みたい。高校の跡地もどうするか、大きな方向性は根底の部分は得られたと思うが、極論の第一歩はまだ踏み出せていない。協議会には一件ずつ事案として提出しているが、まだ一眼たりとも提案を受けていない。何か進んでいるのか。

[松本副町長]

高校跡地の方向性であるが、庁内でプロジェクトチームを立ち上げて、ある程度詳細な計画をしてから議会等に説明していこうと考えている。また、この総合教育会議でも説明していきたい。まずは、跡地をどう活用するか、どのような問題があるかを十分に検討した上で対応していきたい。

[塩田町長]

町内組織はどういったメンバーでいつスタートしていつ頃に答えが出るのか。

[松本副町長]

メンバーは副町長である私をトップに、企画振興部、教育部の部長、課長をメンバーとして取り組みたい。小豆島高校はアクセス道路の問題があるので、どういったアクセスできるのかといったことを具体的に検討を加えて、2月早々から立ち上げて本年度中にある程度の素案は作っていきたいと思っている。そういった中で、どういった対応があるか相談させてもらいたい。

[森口小豆島町議会議長]

高校跡地は町立でないということが前提であるので、今からそういう話をするのであれば遅いのではないか。やはり県の持ち物であるので早急に確約をもらってから協議すべきではないのか。

[松本副町長]

まずは、通学路の部分を検討させてもらいたい。大きな方向性については皆さんご理解いただいている。

[坂東教育部長]

教育委員会としては、来週以降の早い時期に具体的に、北グラウンド、新旧体育館、この社会体育施設として利用することについてまず話を進めながら、それと並行して通学路等の協議を進めながら全体の交渉についても進めていきたい。

[森口小豆島町議会議長]

そうではなく、高校の跡地が確約されていることを私は聞いていない。そこを聞きたい。教育委員会で話ができていても、知事部局で議会の承認が必要であると思う。かなり前に別の場で話をしたはずであるが。

[坂東教育部長]

私が高校教育課に1月に入り確認したが、小豆島高校の跡地については、現段階では高校教育課が窓口で最終的には高校が廃校になれば知事部局になると思うが、今の段階では高校教育課を通じた協議になる。

[森口小豆島町議会議長]

再度言うがあまりにもものんびりしているのではないか。当然お金がついてまわる話になるので、町の予算の関係で段取りをしなければならないと思うが。いろんな素晴らしい案を作っているけど確約が取れなければ中学校移設もできないと思う。

もう一つ、別であるが、幼稚園の先生に聞いたことがあるが、幼稚園は気持ちよく登園することが一番であると、それからいろいろ教えるという話を聞いた。それから、小学校、中学校と行きそれから勉強をすると体が覚えていくと思うが、この当たり前のことが一部出てきていない不登校の方がいる。原因は家庭環境、あるいは学校でのいじめ等あると思う。こういった対応はどうしているのか。小、中学校全校生徒が揃うときはなかなかないと思う。

[小玉小豆島中学校校長]

本校は昨年30日以上欠席していたのが15名おり、本年度は9名いる。人数的には減少はしているが、1日も学校に来ていない生徒も数名いる。学級担任や学年主任が家庭を訪問し、保護者や本人と話をするようにしているが、中にはもう来ないでくれと言われることもある。少しでも学校との連携を欠かさないように関係を繋いでいる。また、若竹教室と連携して、そちらに行けるようになった生徒もいる。スクールカウンセラーを付けることもあり、あの手この手で対応している。その後どういった生活を送っているかというところ、通信制高校に入り機嫌よく通っていたりすることも聞いている。やはり、繋がりをもつことで、次の未来が見えてくるのかなと思う。

[出水池田小学校校長]

現在全く登校できていない完全不登校の生徒はいない。ただ気になる子については何名かいる。対応は学級担任が中心になるが、支援の先生や家庭訪問することの大切さであるとか、気になる子には登校した際に本人に対しての声掛けをしっかりとしていくことを大事にしている。また家庭との連携ということで、直接家に行ったり、電話等で状況を聞いたりとすることを大切にしている。連続して休む子に関しては、家に行くことを原則として、電話では済まらず、本人の顔を見て確認することを大切に話す話は教員にも伝えているところである。

[羽座星城小学校校長]

本校は30日以上欠席が2名いる。毎日連絡をとっている。そして2日休んだら家庭訪問するようにしている。そのうち1名については学校には来られないが、草壁会館には行けるので担任が草壁会館に出向き勉強を教える体制を取っている。

[石田安田小学校校長]

学校としては楽しい学校づくりを進めているが、今年度30日以上が1名、このままいけば30日を超えそうな生徒が2名いる。担任が個別に家庭訪問や連絡をとったりしているが、家庭訪問を拒む家庭や担任がアクションしてもなかなか動かない家庭があり苦労しているところである。

[川井苗羽小学校校長]

本校の場合、不登校児童はいない。全校生徒が揃った日も44日以上になる。それは日々の努力の成果だと思っている。学校に来づらい子、家庭的に来るのが難しい子を本校も抱えているが、親御さんも一緒に子供を支えていくんだというスタンスを必ず守るようお願いしている。学校は来るものだと押し付けるのではなく、なぜ来られないか、今その子

にとって何が必要なのかということ、チームになり考えていくことによって、結果的に何年かかかって今の状態があると思う。

[安井教育民生常任委員会委員長]

パブリックコメントについて、いろんな政策もそうだが、特別な言葉遣いの意味がわからないと理解ができないので、その辺を整理してちゃんと理解できるようにしてもらいたい。

[大川小豆島町議会副議長]

先程議長からの話で、高校の跡地のことについて私から話したい。これから協議をしていくとのことだが、協議の結果どうしても無理だということになると、どうしようもないことになるのではないかと。また、年明けに県の黒島議長からお話いただいたのが、未だかつて小豆島町から高校跡地を使うという話は議会にも県知事部局にも来ていないと強く言われた。今がチャンスだと思うのですぐにでも小豆島高校の跡地を使いたいということをお願いに行き確約が貰えれば、その話を今から協議していける。場所も決まらないまま、県から土地を借りて何億かかると言うがまま出すのではなく、話を前もって持っていくべきではないか。黒島議長はしびれを切らして、私に話をしたのではないかと思う。町長も含めて、一緒と言われれば私も一緒をお願いに行く。まずは確約を取るべきである。

もう一点、教育大綱の中で教員の充実についてであるが、小学校から高校の人事であると思うが、これから新しい高校でもっと充実出来るより良い教員を島に送り込んで欲しいと県教育委員会をお願いに行くべきではないか。4月の異動に向けて県教委も動いていると思うので、是非お願いしたい。

[松本副町長]

大川副議長のお話について対応していきたいと思っている。黒島議長とは昨年末に、私と松尾副町長と後藤教育長とで、今現在の取組状況について説明に行っている。その話の中で、黒島議長から指摘された通学路等の問題をクリアにしてから取り組みたいと思っている。

[後藤教育長]

教員の充実ということについて、昨日、早速人事具申がありこれから何回かあるので、小豆島町はこういったことに力を入れていきたいということを伝えていきたいと思っている。

[塩田町長]

小豆島高校跡地の活用や新しい高校については、香川県の協力なしに進められない話なので、県知事、県議会議長へのお願いは怠ることがないようにやっていきたい。大きな構想については少なくとも、県教委の教育長には理解してもらっており、高校教育課長にも理解してもらっていると思っている。しかし、県有地の処理の問題は香川県にとって、とても大きな課題である。小豆島町と県教委の高校跡地だけの問題ではなく、土庄高校の跡地の問題でもあり、他の高校、他の県有地についてとても複雑で難しい問題である。私が県の企画財政課長であれば、小豆島町が教育文化スポーツ施設で活用したいとなれば、少なくとも時価以上で売却し、県の財政負担を軽減する立場にきっと立つだろう。一方、教育長は県立高等学校の跡地が香川県県教委からしても、望ましい形で検討されているのであれば少しでも地元の負担を軽減する立場に立つだろうと思う。そのやり取りをうまくやっていかなければならない。最終的には教育大綱にうたっている教育文化スポーツ施設にし

たいが、順番に手続きを踏まなければならない。そして、一番初めに解決しなければならない問題はアクセス道路の問題である。安全に中学生が学校に通えるのかどうか、この問題を一番最初に解決しなければ、前に進んでいけないと思うので、事務当局には、どんな問題があって、どう解決していくのかを速やかにいろんな関係者と議論して対案を出し、どの案ならゴーサインがだせるか考えるように伝えている。そのうえで、アクセス道路が大丈夫となると、建物の話になるが、使えるのか使えないのかとなると、たぶん使えない。すると、これをスクラップするのに何億というお金がかかるが、どこがお金をだすのか。民間であれば、土地を売る人が更地にして引き渡すのが原則であるので、高校の跡地を最終的には小豆島町が借りるなり購入するにしても、あの建物を壊す負担を誰がするのか根本的な問題がある。中学校が建てられることが確約できなければ、土地の協議に入れないと思うし、土地の値段も変わってくる。それにしても、あのすばらしい2つのグラウンド、2つの体育館、これは4月から使えるようにしなければならない。しかし、校舎の部分は中学校が建てられるのか確約しなければ協議に入れない。そして、旧体育館を文化活動にも活用したいと提案しているが、どんな文化活動があるか話をつめなければならない。小豆島高校の跡地の問題だけでも、つめなければならない問題が多くあり、かつ順番をおって、急ぐテーマと時間をかけてもいいテーマとある。そういった中で県とやり取りをしなければならない。教育委員会だけではなく、財産管理の件等、黒島県議長には様々な指導をいただいている。

[後藤教育長]

私と、両副町長とが黒島県議長にお話しに行った際は、町長が言っていた通りのことをおっしゃっていた。

[塩田町長]

では、一番先にやることは何か。

[後藤教育長]

29年度にグラウンド、体育館を使えるように、借りることができるように進めていきたい。

[塩田町長]

アクセス道路の話は誰が検討しているのか。町政懇談会等で話が出てどれだけ時間がたっているのか、簡単な問題ではないと思うが、3月末までにできるのか。それで、本当に4月から体育館等使えるのか。

[松本副町長]

庁内プロジェクトはすぐにでも立ち上げる。アクセス道路については拡張工事や用地買収等の問題、それが無理であれば交通規制等警察との協議も進めていく。現在の時点では、4月から使えるように努力をしていきたい。

[塩田町長]

時間が来たので今日の会議は閉めたいと思う。結論から言うと、2月中旬から3月中旬にかけてパブリックコメントを行い、広く町民の皆様のご意見を伺いたいと思う。ホームページへ掲載、公民館に置くだけでなく、広報誌に折り込みを入れ、わかりやすい用語説明をつける、かたちは決まっていないが説明会を開き、4月以降も随時説明会を行うようにする。高校の跡地に関しては私が責任をもって香川県教育委員会、本庁と協議をしていきたいと思う。次回は3月27日の午後1時半を予定している。以上で本日の総合教育会

議を終わる。